

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000530		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム あしきた		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2015-6		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには消防署、役場、警察署、セブンイレブン等があり、3号線沿いでもあるので立地条件はいいです。天気の良い日には、窓ガラスから居間や居室に陽が降り注ぎ冬は暖かいからです。各居室や廊下にはいつでも利用者様や家族の方々が見られるように職員の手作りの作品を飾っています。利用者様の家族の作品もあります。職員は常に利用者様が笑顔で過ごされるように笑う事を心掛けながら会話しています。遠くへの外出は少し減って来ましたが、町内のドライブには出かけています。30歳の職員1名と6名の美魔女が団結して日々の介護に力を注いでいます。これからもあしきたは理念の下、尊厳、個性、主体性を尊重して利用者様の生活を支える事を頑張っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を母体持つ『グループホーム あしきた』は、2003年の事業開始より地域と共に歩んでいる。災害対策では心強い消防署の存在や、法人全体で防火管理者資格取得に力をいれ当ホームにも6名在籍し、防災への意識を高めている。昨今では徒歩圏内に開設した同法人3か所目のグループホームと合同で災害訓練を実施するなど自然災害への対応にも力を入れている。既存の建物を活かしたホーム内は玄関や和室の居間、台所の流し台など一般の家庭の作りや配置であり、入居者と職員の和気あいあいとしたやり取りからも居心地の良さが伝わってきた。美味しい食事やトイレ誘導など入居者は必ず場面場面で感謝を言葉や表情で伝えておられ、職員も笑顔で返答している光景が印象的であった。今後も地域の中のホームとして年月を重ねていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に貼ってある理念を各人読んでいる。具体的なケアについてはカンファレンス時意見の統一を図るようにしている。地域に密着したホームの理念を作り取り組んでいます。	専断、個性、主体性」の法人理念として、地域密着型のホームとしての独自理念として、「親しみの持てるホームづくりに心がける。」を掲げている。また、年度の目標として、「健康管理に努め、笑顔を絶やさず入居者と接する。」ことを定め、日々のケアの中で共有を図ったり、確認を行いながら実践に繋がっている。理念は運営推進会議など外部への啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員は近隣の方への挨拶には常に心がけている。地域の清掃活動に参加するようにしている。	日頃の活動や入居者の近況を知らせる「あしきた通信」を地域へ回覧することによって、ホームへの理解や関係を築いている。また、地域の一斉清掃活動への参加、地元高校からの実習生の受け入れや町主催の文化祭への入居者の作品の出品、近隣からのボランティアの訪問など、交流の機会を持ちながら地域の一員となるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事には参加し、地域の方々との交流が深まるように努めている。利用者様の作品を地域の方に見てもらえるように町主催の文化歳へは必ず出品するように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告及び他の委員からの質問、意見、要望を受けサービスの向上につなげています。管理者と他スタッフも参加しています。	2ヶ月に1回、定例的にホームで開催している。出席者は、区長、民生委員、消防署、行政、家族代表とホームからは事務長、管理者、職員が出席している。会議では2ヶ月の近況やヒヤリハット事故報告の後、民生委員からの活動報告や隣接する消防署からの地域防災や緊急時対応、行政情報など有意義な意見交換をサービス向上に生かしている。	外部評価については、会議で報告されているが、ホームの特徴ある支援など、テーマを絞り説明されることでより理解されやすいものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供書等も役場に申請してもらっています。ケアに関する事も必要時には提供しています。町主催の研修会にも必ず参加しサービスの向上に活かしています。運営会議にも役場から1名参加されています。	行政の担当者が運営推進会議にメンバーとして出席しており、ホームの現状を伝えながら、様々な情報を提供してもらっている。また、在宅生活困難者の相談や入居依頼を受け、短期利用を検討するなど協力関係を築いている。生活支援の必要な入居者など、行政と連携を図りながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の身体拘束に関する勉強会を実施しています。職員共有認識を図っている。利用者様の状態を把握する事で自由な生活を支援しています。	法人やホームで勉強会を実施している。身体拘束の弊害については、職員間で認識を共有し、拘束は絶対しないことの徹底を図っている。日中は玄関を開錠しており、センサーマットの使用もなく、入居者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。また、職員のストレスケアとして、お互いに思いやり助け合うよう心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会にも参加し虐待がないように注意し防止に努めています。職員全員が意識を持って取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会が主催する成年後見制度の勉強会等参加している。法人内でも勉強会があり参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。ホーム見学の際にも十分な説明をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも利用者様と話しできる関係であり、意見、不満等聞いている。内容を必ず職員で話し合い運営に反映させている。玄関には意見箱を設置している。面会時家族とのコミュニケーションに心掛け、意見や要望を聞くようにしている。	入居者とは、普段の生活の中で、要望等を聞いており、職員で話し合いながら、サービスに反映している。家族には、運営推進会議、家族交流会、意見箱等で、意見、要望を聞くこととしている。更に、面会時や毎月の利用料持参時、遠くの家族へは電話での状態報告時に声掛けし要望等を聞いている。入居時には、ホーム内外の苦情相談窓口についても説明をしている。	あしきた通信は家族も楽しみにされており、行事予定欄なども協力を繋がっていると思われる。ホームの連絡先については、市外局番も記載されており、特に遠方の家族にとってはスムーズな連絡ができると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	先生、事務長、訪問看護主任を交えた運営会議の席で意見や提案を出し合ってホームの運営に反映させています。	毎月1回開催される運営会議には、理事長、事務長等も出席している。会議には、職員からの報告、意見、提案等が出され、早急な対応は意欲の向上に繋がっている。ホームは、馴染みの関係を大切にしながらも異動もなく、資格取得に向けた支援体制も整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休産後等福利厚生が確立しており、継続して働くことができる事で離職防止になっている。職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、待ち主催の研修やリーダー研修会等全職員が参加参加出来るような体制を作っている。研修報告は毎月の全体会議(月例会)の時発表しています。資格取得に向けて職員常に頑張っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの城南地区ブロック会議に参加し情報交流に努めています。同法人同士の交流や近隣のグループホームとも交流して質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にはそれぞれ担当の職員がいる為、担当で色々なことを尋ねたりしてコミュニケーションを取っています。担当が困った時には全職員で検討し受け止められるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームへの面会時には、利用者様の事を話したり家族の方に心配等はないか聴くような機会を作り、家族の相談をゆっくり聴くようにしている。話を聴くことで次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの相談があったときには職員で話し合い状況を確認しながら、改善に向けた支援の提案をし必要なサービスにつなげるようにしている。場合によっては法人の支援相談員に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識は持たず利用者様が出来ることはしていただき、出来ない所を助ける。このことを大切にしています。利用者様と職員が共同しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告、相談している。本人様の希望などを家族の方に話すようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は関係が途切れないように地域に利用者様を連れてドライブに出かけるような支援に努めています。利用者様の居室でゆっくりと話が出来るように支援しています。	家族の協力を得て馴染みの場所に行ったり、購入し慣れた近隣での買い物など馴染みの場所や人との関係が途切れないようにしている。。家族等の面会時には居室に案内し、ゆっくり過ごしてもらい、次回の訪問も依頼している。また、歌や踊り、菜園の管理など本人の趣味、こだわりなども普段の生活の中で継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、常に心身の状態や気分、感情で時々変化する事もあるので注意し見守っている。毎日のおやつ、食事の時間も職員と一緒に多くの会話を持つように、利用者さまとの関係が円滑になるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続が損なわれないように、生活環境、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めているため、利用者様からの希望や以降を担当職員の意見を基に聴いている。そして情報の共有化に努め、利用者様本位のケアに反映させています。	入居者の思いや希望、意向は、日々の暮らしの中で、声掛けをしながら把握に努めている。把握が難しい場合は、家族から情報を得たり、日々の表情や行動からくみ取り、スタッフミーティングで職員間で話し合いながら、本人本位になるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの話や前施設からの看護サマリー等にて経過の把握に努めている。センター方式による家族の方より記入頂いた利用者様の状態の把握にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い、利用者様の健康把握に努めている。体調の変化には職員が常に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様等に要望を尋ね、そしてカンファレンスを開催し介護計画を立てている。担当によりアセスメントが記入されているため、職員の意見の反映されたプランが出来ています。	職員は担当制をとっており、日々のケアの中で、入居者や家族の思い、意向を把握し、情報の共有を図っている。プラン作成に当たっては、毎月1回の推進会議(主治医である理事長、事務長、訪問看護主任出席)の前に開催するスタッフミーティングで、職員間で話し合い、入居者の現状に沿ったプラン作成に努めている。家族には、来訪時に、現状を踏まえたプラン内容を説明し了承を得ている。プランは、基本的に半年ごとの見直しとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護保険の更新時期、半年の定期的な見直しには必ず担当者会議を開催し、家族の意向や担当の意見、利用者様の要望等を状況及び今の現状に即した見直しを行っている。利用者様の情報は職員常に共有し介護の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、一人一人の満足度を高めるよう努力している。母胎が医院の為医療との連携により受診、入院、病気の早期発見に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、運営推進会議には、消防署の方、役場の方、区長、民生委員さんと意見を交換するようにしている。年2回の避難訓練には消防署及びQネット、地域の方に参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母胎医院がかかりつけである。その為日常的な受診や緊急時対応、夜間の往診等、適切に医療が支援されています。利用者様の状態報告は常にホームの医師である理事長及び訪問看護に相談報告している。3ヶ月毎の定期検診実施。	入居時に協力医療機関について説明を行い、現在は救急対応などの面から家族の了承で全員が協力医をかかりつけ医としている。定期的な受診や気になることがあれば、医師へ報告を行い早急な対応が図られることは、家族の安心となっている。眼科など専門医受診については、ホームや家族など状況により対応している。訪問看護をはじめ、職員はバイタルチェックや、食事の摂取、運動など日常の関わりを大切に、入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と常に連絡を取っています。週1回の訪問看護にも利用者様の状態報告をし、早期発見に取り組んでいます。24時間対応にて連携可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医院が法人内の医院であり常に連絡を取り合っている。ホームの利用者様が医院に入院されたり、退院される時も早めに連絡し合う等連携を図っている。また入院時には家族の方への状況報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時家族の意見を必ず尋ねている。状態変化時には家族と相談し、かかりつけ医院との連携を図っている。母胎が医院であり併設に老健があるため医療行為が必要になる時には入院等の検討を行っている。利用者様や家族の意向を踏まえ随時意思を確認しながら取り組んでいる。	入居時にホームの方針を説明し、意向を聞いており、実際そのような状態になった時点で医師を含め関係者との話し合いを行っている。重度化・終末期支援については、法人内研修やブロック研修会に参加した職員による復講により共有している。管理者はその時々で変化する家族の思いを汲み取りながら、今後もホームに出来る支援に取り組んでいきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修会に参加し応急手当や初期対応の訓練を実施しています。緊急時対応マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル等作成し年2回利用者様と一緒に避難訓練を行っている。消防署立ち会いのもと実施しています。通報、避難誘導等利用者様、職員、区长、民生委員さん参加で行っています。夜間想定避難訓練実施。法人内の災害対策委員会も設置し、老健と合同の避難訓練を実施している。	災害マニュアルを作成し、年2回入居者や近隣者も参加した避難訓練を実施している。ホーム近くに消防署があることや運営推進会議に署長の参加が得られていることは、心強く適切な指導やアドバイスを安全管理に活かしている。また、法人全体で防火管理体制の強化に努めており、ホームにも6名の防火管理者が在籍している。自然災害についても系列のグループホームと合同での避難訓練が行われており、台風接近時などは、防災対策委員会と法人代表者の指示を仰ぐこととなっている。	今回の熊本地震ではホームに被害はなかったものの、入居者に不安なく過ごしてもらうことを心がけたと語っている。昨年の積雪では勤務体制の変更など協力し合って入居者サービスに支障をきたすこともなく運営できたようである。今後もあらゆる災害を想定して、有事に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様一人一人の事を把握し言葉を利用者様が分かり易くて親しみやすい方言を交えながら話している。居室に入るときは必ずノックするか声掛けしています。個人情報守秘義務は職員十分に理解しています。	一人ひとりの入居者が安心して過ごせるような環境や言葉掛けに努めている。呼称は苗字や昔呼ばれていた呼ばれ方など家族にも確認しながら対応している。居室に入る際は、ノックや承諾を得て、衣類管理や整頓などを行っている。個人情報や守秘義務については、入・退職時や研修会で周知徹底が図られている。面会簿は個別記入で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等はよく聴いて本人様が納得されるよう説明し支援している。利用者様の状態に合わせて本人が答えやすくしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、きっちりとした時間はきめていない。利用者様のペースや体調を考慮しながら気持ちを尊重して対応に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替等出来る方は本人様の意思で決めて着替えもしておられます。自己決定が難しい利用者様には職員が見守り、介助しています。お出かけ用も持っておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームには畑がある為その日に収穫した野菜が食卓に出る事もよくあります。刻み食、普通食によって野菜の提供の仕方が工夫されています。台ふきや下善の手伝いをしてもらっています。	季節や和・洋食のバランスを考慮した献立を作成し、食材購入は職員が地域商店に出かけ、新鮮なものを見極め購入している。食事形態は一人ひとりの嚥下力に応じ準備しており、手作りで温かさや冷たさなど料理に応じた食事を職員と一緒に楽しんでいることは入居者の食欲を増し、健康も支えている。入居者も食材購入に同行したり、おやつ(饅頭・おはぎ・柏団子など)作り、茶碗洗いなどできることで食に関わっている。	日常の食事に加え、希望を取り入れた誕生会食やイベントメニューなど、好評の食事支援が展開されている。今後も入居者の笑顔を引き出す食事を継続いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調と1日の摂取量は把握している。食事量も個々に合わせて確認し、利用者様の好きな食べ物や食べやすいものを提供している。現在主食は皆様お粥、副菜は常食や刻みである。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは洗面所にて行い、自分で出来る方には声掛けや見守りをし、出来ない方には洗口液でのうがいなどでケアを行っている。利用者様個人に応じた歯磨きの手伝いを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者様の様子から敏感にとらえトイレでの排泄を大切にしながらパットの種類も利用者様に合わせて使用しています。尿意のない利用者様には時間を決めて誘導しています。	個々の排泄状況を共有し、自立の方の継続や手引き、オムツ交換などを行っているが、日中はトイレでの排泄を基本としている。夜間も個々に応じて支援しており、ポータブルを使用される方も1名おられ、日中は清潔に管理している。排泄用品についても適切なものや組み合わせを検討し、本人の気持ちよさや家族の負担軽減に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方には十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供しています。Dr指示にて下剤服用の利用者様もおられますが、職員は出来るだけ自然排便を促す工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や体調を考慮しながらそれに応じて毎日入浴おこなっています。	夏場は毎日入られる方もおられるが、冬場は週3～4回の支援が行われている。拒否の方には再度声をかけたり、難しい場合は更衣のみ行っている。入浴剤の使用や柚子・バラ風呂の他、5月の菖蒲湯では菖蒲を頭に巻くなど昔ならではの慣習を取り入れ、更に季節湯を楽しめるものになっている。シャンプーは皮膚の状態に応じるため、2種類用意している。	窓棚に置かれた洗剤などの物品は置き場所を見直すことで、更にスッキリとした浴室になると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に応じて対応していますがなるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるように努めています。安眠効果のある物を色々試しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに綴り職員が内容を把握出来るようにしています。薬の処方等が変更されたり、利用者様に状態変化がみられた時にはかかりつけ医院との連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るような仕事(テーブル拭き、洗濯物たたみ)等を頼み、そしてお礼の言葉を伝えるようにしています。季節事の行事は必ず取り入れ全員が喜ばれる事を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中は医院に電気治療。天気の良い日はホームの中庭で外気浴。季節に応じた外出の機会を設け、楽しんでいただけるように努めています。	敷地内の菜園で職員の作業にアドバイスをしたり、庭先の散歩など外気浴を兼ね、短かな外出の機会を持っている。ドライブを兼ね水俣のローズフェスタのばら見学は恒例となっている他、お立岬や花見物など地域資源を活用した外出も行っている。また、定期的に家族と外食を楽しまれる方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金は持っておられます。生活保護の支給を受けている利用者様が4名おられます。他の利用者様は家族の方より預かり事務所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて電話は自由にかけてもらってます。御家族からの電話の取り次ぎも出来ます。年賀状の支援もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花を飾ったり、利用者様が作られた作品を廊下や玄関に飾ったりしています。居室の入口にはのれんを下げ、優しい空間を演出しています。家族の方の手作りの品や懐かしい調度品が置いてある居室もあります。	ホーム内は観葉植物や職員が持ち寄った草花、壁面、外出時の写真などが飾られている。また、絵の得意な職員が描いた入居者の似顔絵も廊下の雰囲気をもくしている。台所の作りや家具なども家庭で使用する物が配置されており、調理の匂いや音を聞きながら、自宅にいるような表情で過ごされていることが印象的なホームである。職員もメリハリのある声かけや失礼のない方言など、自身も大切な環境と捉え、入居者支援にあたっている。	経年と共に物品の量が増えたり掲示物の損傷も出てくることから、今後は限られた収納スペースであるが、定期的な見直しも必要と思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには絵画や花、季節毎の写真などを飾り、温かな雰囲気を作っている。居間に置いてあるソファは利用者様が落ち着いてくつろげるような配置を常に職員が考えて取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方より思い出の品々が持ち込まれて居心地の良さを配慮されている。利用者様には担当の職員がいる為アイデアを出し温かな居室になるように配慮しています。居室でラジオを聴いたりテレビを観て過ごされる方もいらっしゃいます。	入居時に今使っておられる物品の方が安心されるため、新たに購入の必要はないことを伝えている。管理者は必ず現在過ごされている場所(自宅・入院先・介護施設など)を訪問し、持ち込みの品を検討する事で、その方に応じた環境作りに繋げている。それぞれの居室は担当職員が中心になって、ベッドの配置や衣類の収納などを行っており、家族にも衣替えなど可能な限りの協力を依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた支援を行っています。ベッドの高さの調整や、夫婦での時間をゆっくり過ごしていただけるような居室の環境整備を行いました。		